

令和6年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和6年12月1日

法人名

園名

社会福祉法人 照治福社会

阿武山たつの子認定こども園

まとめ

全体平均

4.50

第2章第2節 乳児期の園児の保育	入園当初は安心できる存在になりたいと積極的にスキンシップを図ったり好きな遊びを繰り返したりしながら信頼関係を築き、伸び伸びと自発的に活動する人的物的環境の構成に努めた。不安な気持ちを泣くことで表現する姿に優しく語り掛け、気持ちの代弁を繰り返す中で、笑顔や仕草で応えてくれる姿があった。指差しや仕草に共感的な言葉を添えながら応えたり、あそびの中での気持ちの共有を行ったりする中で、喃語や言葉でのやり取りも活発になっていったため、これからも引き続き愛情豊かに関わっていききたい。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児	それぞれに安心できる担当保育者がいることで自分から主体的に活動でき、表現した気持ちを保育者に受け止めてもらうことで安心して他者との関わりを楽しむこともできている。子どもがやりたいと思えるような遊びに誘いかけ、子どもの様子に合わせて道具を出したり場所や種類を変えたりしてその子に合うやり方を考えている。絵本を読んだりわらべ歌あそびを取り入れたりし、思いを込めた言葉で返すことを大切にしながら今後も言葉を引き出していききたい。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	自分の思いを伝えたり相手の思いに気づいたりできるようにしたいが、その声掛けが難しく、自分自身の語彙力の無さを痛感する職員が多い。1対1の学年別の対話をもっと大切にするなど、集いの行い方や対話の方法について学びを深めていきたい。近くに公園もたくさんあり、植物や昆虫などの生き物を通じて自然を感じられる環境は整っているが、保育者自身の知識や興味が足りずに広げられなかったと感じる職員も多かった。命との関わり方についても、まずは職員同士の対話を深めながら考えていきたい。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	寝不足や体調不良、機嫌が悪いなど、担任間で共有出来ている。感染症の流行もお知らせし広げられないよう配慮している。新年度にも子どもの状態を引き継ぎ共有している。一人一人の気持ちを受け止めるためには保育者の気持ちに余裕が必要であり、援助方法に迷いがあるという・いないに関わらず、国籍や文化を知るきっかけ作りが必要だった。行動を見守る、待つ姿勢が足りなかった。個人差を踏まえての関わりをもっと考えてそれぞれに対応していく。
第3章 健康及び安全	健康支援について様々な対策を講じてはいるが、看護師に頼りすぎている部分があると感じる職員も多いことから、全職員が様々な場面を想定して対応できるようにしておく必要がある。食育については様々な企画を実践しているものの、調理する人への感謝の気持ちについてどのように指導すれば子どもたちに伝わるかを模索中である。精神保健面については公認心理師の上田さんに協力してもらえ。災害対策としては、土曜日や行事中などに災害があった場合どう動くべきか戸惑うという意見もあったので、今後情報を整理して周知していく必要がある。
第4章 子育ての支援	お迎えの時間に限りがあるので完璧に伝えられているという自信はないが、掲示板や行事を通して子どもの姿を一緒に見つめる時間はある。社会資源として自分自身が園の役割をどの程度理解できているかは不安だが、相談に乗ってくれる職員はいるという意見が多かった。保育参加や保育講座を通して子育てについて考える機会を作っている。支援面談を年4回行うなど、丁寧に子どもの育ちを見守る機会を作っている。正しい情報提供が何よりも大切だと思うので、一人ひとりに合った情報が提供できるように、日々情報収集に努めなければならない。
第5章 職員の資質向上	保育者の専門性を高めるために積極的に研修を受け、知識や技術の習得、向上に努めている。子どもの最善の利益を考え、保育教諭として子どもたちに何が出来るか、学びを質の向上に活かせるよう努めている。公開保育や会議など、様々な意見交換の機会を作り、日常的に主体的に学び合う環境を整えている。外部研修に参加することで悩みに対する改善策が生まれ、保育への意欲につながっていると感じる。研修受講の報告を共有し、園全体の保育実践や質の向上、専門性の向上につなげている。
総合	昨年度から実施している定期的な園内公開保育の中では、保育を振り返ることによって職員同士の対話も活発になり、日頃の悩みや思いの共有ができる機会になっている。外部研修も有効だが、このように全職員が参加できる機会を今後も大切にしていきたい。また今年度初めて完全週休二日制を導入し、法人を挙げて職員の処遇改善に取り組んでいる。土曜日に出勤した職員がその前後に休んでも回るシフト作りや更なる業務省力化、行事の見直し等、折角の取り組みをより良いものにしようと、全職員が前向きに取り組んで来た。行事を平日に移行しても参加率が下がらなかったこと、保護者の方から「良い取り組みだ」とあたたかい言葉をいただいたことは大変喜ばしいが、一方で「ひと月に2回の行事はなかなか仕事を調整しにくい」とのご意見もいただいた。来年度の検討課題として対策を考えていきたい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	47	4.34
「3歳未満児保育」	294	4.38
「3歳以上児保育」	582	4.40
「教育保育の配慮事項」	143	4.52
「健康・安全」	821	4.59
「子育ての支援」	275	4.59
「職員の資質向上」	135	4.42
計	2297	4.50

データグラフ

